

「お仏壇のある風景」

築地本願寺で落語口演、釈徹宗さんの対談

落語口演と対談「お仏壇のある風景～あなたの家にお仏壇はありますか」が11月5日夜、東京都中央区の築地本願寺で開かれ150人が参加した(写真)。日本の伝統文化である落語を切り口として、仏教をより身近に感じてほしいと本願寺派総合研究所東京支所が主催。昨年に続いて2回目。

上方落語の桂文我さんが高座にあがり、話にお仏壇が織り込まれる「由辰」「菊江仏壇」の2つを演じ、さらに仏教にかかわる小話を軽妙な口調で語り、会場は笑いの渦に包まれた。

続いて、宗門関係の相愛大学・釈徹宗教授と同研究所研究助手の真名子晃征さんが対談。釈教授は「菊江仏壇は明らかに浄土真宗の話。舞台の大阪・船場は大坂本願寺を起源にした寺内町として発展した地。家に大きな仏壇を置き、法座に参るのが「船場のだんさん」のスタイル」と、落語の背景を説明。また、教えと共に習慣の大切さを述べ、「お仏壇を置くと家に方向性ができる。家の中に特定の方向性を持つと生活は違ってくる。生活の中に頭を下げる方向



があるのは大切で、その習慣を通して身に備わるものが実は大きな生きる力となる。現代人はこの習慣を軽視しすぎではないか」と家庭にお仏壇を置く大切さを語った。

都内で暮らす三上博民さん(65)は「福岡出身。家が浄土真宗で、親が亡くなったことを縁にお仏壇を迎えた。その後、妻が亡くなり、毎日お仏壇に手を合わせているので釈さんのお話をとても身近に感じた」と語っていた。